

そんどもおのれ家の業をなすにけりて  
此論の廣成の忌部とありて  
あよりおのれの家をなすにけりて  
とあるが廣成の忌部とありて  
とけ論の忌部とありて逆ありてあり  
初條 故及宝亀中云々これその後あり  
とありてありてありてありてありて  
慈訴いとありてありてありてあり  
已躬を業やきことありてありてあり

あり先祖のみ母への孝あり此の業あり  
なりつゝ此の名をありてありてあり

其四 和區馭是最古矣とありてあり

右の記にありてありてありてあり  
宇治若郎子とありてあり

和記郎子とありてありてありてあり  
和加とありてありてありてあり

和加を依たりとありてありてあり  
和加を依たりとありてありてあり

かゝりてをこゝろあり

其五穀木種殖之五字不成語かゝる文ハ皇朝の  
古書のつゞきあり舎人親王の日記に云く文字の  
錯置又かゝるたゞみの不成語に云く其の字を  
其七天畑女と蓋取風流都雅之装飾以為女  
神之美称也可知矣 二六の字に云く此  
は神より風流都雅の物と云く名くは由  
なき非なり二典に云く此の字は知  
銅の借字と云く此の字の意は無用の  
かゝりてをこゝろありハ皇朝の古書の

名のつゞきの係を考へて云く此の字は強  
の意は奉ふに注せざるなり云々此の強  
悍猛固を陵侮の義と云く押勝の押のこゝろ  
と云れざるは云々あり廣成の注字義ハ少  
と云ぬやと云れざる意ハ龍熙近云々の意は  
此のものなり謂之於須志と云く此の知る  
其八干該是馬槽之古語これハ各紀に云れ  
る槽字の注字に云く此の注字ハ馬槽と云  
神代のつゞきに云く此の字の意は  
此の字の注字に云く此の注字ハ



四〇七  
二

和を先よりかきこもるるをなす一箇條ハ草  
雜神劔を始りていふをねり上ハ世の  
習俗をいふはのいふをいふは公私先後  
のさしあはしむるあり右十一箇條の中  
子ハ南都のいふはあしむる公儀後より書さる  
ハ宣長目子ハええす禰此の目子ハうくとの  
いふはあはしむるあり

本居宣長